

## 第18回日本・スペイン・シンポジウム 共同議長による最終報告書

### <前文>

●第18回日本・スペイン・シンポジウムは、2016年4月15～16日、17世紀～19世紀にかけての日本の平穏な時代の礎を築いた徳川家康公のゆかりの地であり、スペインと400年以上の歴史的関係を有する静岡市において開催された。スペイン側からカルメン・ベラ科学技術・イノベーション担当長官、イグナシオ・イバニェス外交長官が、日本側から山田美樹外務大臣政務官、城内実衆議院議員が出席した。

●近年、日西間の貿易・投資関係は顕著に拡大し、観光客数に示される両国間の人の往来も新記録を打ち立てている。日西間の航空便の強化（2016年10月以降の東京―マドリード間直行便）及びワーキング・ホリデー制度導入に係る協定の早期の締結により、こうした傾向が継続することを期待する。このように、2014年11月に採択された第17回日本・スペイン・シンポジウムの最終報告書で言及された分野を含め、この1年余りの間、多くの分野において日西関係に大きな進展が見られていることに対する高い評価において両国は一致する。

●第18回となる今次シンポジウムは、「経済成長、高齢化社会と地方創生：日西の展望」とのテーマの下で開催され、地方創生の目標を念頭に置きつつ、高齢化社会に対応する公共政策や技術及びサービスのあり方、観光の果たすべき役割について議論を行った。共同議長としては、最近の日西関係の進展を振り返り、かつ、シンポジウムにおける議論を踏まえつつ、次のとおり両国関係を展望する。

### <高齢化>

●日本及びスペインはOECD加盟国中第1位及び第2位の長寿国であり、双方の社会において急速に進む高齢化へ如何に対応するかという大きな課題を共有している。公共政策のみならず、新しい技術に基づく製品や新しい分野のサービス等を含め、それぞれの対応のあり方を学び合うことは、双方にとって利益が大きい。高齢化は様々な課題を提起するが、同時に新たな技術的・経済的機会をも生み出している。介護におけるロボットの利用や健康長寿社会に向けた健康医療情報サービスをはじめとして、高齢化の課題の克服に貢献しつつ、新たな機会が存在する分野において、両国は協力を強化することができる。その意味において、本年1月にマドリードで開催された第1回グローバル・ロボット・エキスポでの、日本政府が招聘した介護ロボット専門家による製品紹介及び広報の実施が評価されたと共に、今後両国間で具体的なマッチング事例が増加することを期待する。

### <観光>

●観光分野は両国間で最も協力を深められる分野の一つであり、かつ今後更なる成長が期待される産業である。両国間では双方向の観光客数が拡大しており、2015年にはスペインから日本への観光客数が7万7千人、日本からスペインへの観光客数が60万人を超

え、相互の訪問者数がそれぞれ過去最高を記録したことに祝意を表す。また、本年10月以降のイベリア航空による東京(成田)―マドリード間の直行便就航を歓迎するとともに、これを可能にするために関係者が行ってきた努力を高く評価する。直行便就航を受けて、両国間の相互訪問が一層拡大し、両国国民の間の交流や相互理解が更に進むことを期待する。

●スペインからの訪日を促進し、観光交流を更に拡大するため、日本がスペインへの政府観光局事務所の設置を決めたことを歓迎し、開設のために必要な協力を互いに講じることを期待する。受け入れる観光客が急激に伸びている日本にとって、観光先進国の中でもトップクラスのスペインの経験は貴重な示唆を与えることが期待される。

#### <地方創生>

●均整の取れた国の発展を目指す上で、地方創生が最重要課題であることを強調する。このため、各地方がそれぞれのアイデアに基づき、固有の資源を活かすことが求められる。両国にはこの点で成功を収めている地方が数多く存在するので、お互いの経験から学び合うことによって貴重な示唆が得られる。

●こうした観点から、両国の地方間の協力の進展を歓迎する。特に、熊野古道とサンティアゴ巡礼路の協力をめぐる和歌山県及びガリシア州の取組を高く評価する。また、四国四県とガリシア州との協力協定の締結を歓迎するとともに、サンティアゴ巡礼路の観光資源としての成功経験をも参照しつつ、四国遍路が早期にユネスコ世界遺産に登録されることを期待する。

#### <経済>

●両国間の貿易や投資が近年拡大傾向にあることを強調する。2015年の貿易額が7,000億円(約54億ユーロ)を超え、リーマンショック後の最高額を更新していること、日本企業によるIT・エネルギー分野を始めとした投資が拡大していることを歓迎する。また、日本及びスペインがそれぞれアジア及び中南米に持つ知見に留意しつつ、再生可能エネルギー事業等に見られる両国企業間の協力が第三国にも広がっていることを歓迎する。駐日スペイン商工会議所の開設がこうした経済的つながりの深化を支えていくことを期待する。また、日本EU経済連携協定について、本年のできる限り早い時期に原則合意を達成するという目標が早期に実現し、この協定によってスペインを含むEUと日本の貿易や投資が更に活発化することを期待する。

#### <科学技術>

●日本とスペインは共に新しいエネルギー分野において世界をリードする先進国である。日本では新しいクリーンなエネルギー源として期待されている水素エネルギーが今や実用の段階に達しつつあり、今後世界的な導入に向けて、再生可能エネルギー分野の先進国であるスペインとも協力の拡大が期待される。水素社会を実現するためには、更なる技術革新、行政による誘導、インフラ整備などが必要になるところ、本年6月にサラゴサ市にて

開催される世界水素エネルギー会議の成果をも踏まえつつ、環境にやさしい社会を目指す両国がこれらの諸点で協力を進めることが期待される。

●科学技術に関する多岐にわたる分野での両国間の協力を大きな期待を寄せる。ラ・パルマ島におけるCTA望遠鏡の設置に関する協力を始めとした宇宙物理学分野での協力拡大に期待する。また、日本医療研究開発機構とスペイン科学技術庁の間の協力が進展し、高度医療に関する共同研究を通じて両国がこの分野の技術進歩に貢献することを期待する。さらに、マラガ市におけるスマートシティ・プロジェクトの成功に祝意を表し、そこで得られた知見が他地域及び第三国における協力へと拡大していくことを期待する。ムルシア州でのスペイン海洋研究所クロマグロ養殖センターの開所に祝意を表すると共に、養殖技術分野での両国間の協力拡大に期待する。

#### <議員交流>

●両国の友好議員連盟の間の交流は、両国の相互理解に大きな役割を果たしてきた。新会期のスペイン国会において、スペイン日本友好議員連盟が早期に構成され、両国議員連盟間の対話を進展させるために必要な努力がなされることを期待する。また、スペインからは2013年2月に上院議長が日本の参議院の招待、2014年2月に下院議長が日本の衆議院の招待で訪日した点を想起の上、近い将来に日本側衆参各議院議長のスペイン訪問が実現することを通じて、議員交流及び対話が更に進むことを期待する。

#### <様々な分野での交流>

●上記の分野以外にも、両国間では様々な分野で交流の拡大が期待できる。ワーキング・ホリデーに関する協定が早期に発効し、この制度の下で次の世代を担う若者の相互訪問が更に活発となり、相互理解が進展することを期待する。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの成功に両国間のスポーツ協力が大きく貢献することを期待する。

●日本におけるスペイン・バルの流行やスペインにおける日本食のブームを歓迎する。

●サラマンカ大学文献学部に日本研究を含む東アジア研究学士課程が開設され、日本人教員の派遣が実現したほか、同大学内に東京外国語大学のグローバル・ジャパン・オフィスが開設されたことに祝意を表するとともに、今後の更なる協力拡大に期待する。

#### <両国首脳共同宣言と外交関係樹立150周年>

●2013年の共同宣言「平和、成長及びイノベーションのためのパートナーシップ」は、引き続き両国関係の深化において重要な枠組みとなっている。これに基づき、種々の分野で協力が進んでいる点を歓迎するとともに、その目標時期である2018年までに更なる結果が出されることを期待する。

●2018年は、日西修好通商航海条約が締結され、両国間の外交関係が開設されてから150年に相当する。外交関係樹立150周年は、基本的価値を共有しつつ友好関係を発

展させてきた両国が平和、成長、イノベーションを共に志向する姿勢を一層深め、戦略的関係を更に深化させていく貴重な機会となり得る。両国官民がこの機会を十全に活用することが望まれる。

●今次会合終了の際、第19回日本・スペイン・シンポジウムがマラガ市で行われることが発表された。

(了)